

第四號元祿六年癸酉十二月廿二日付裏書ニ五箇領トアルヲ以テ被
告ニ於テハ被告モ其五箇領ノ一ニシテ入會村ナル旨申立ツレモ被
告ハ元來松平遠江守ノ領分ニシテ其領分ニハ淺野村及ヒ福王寺村
等アリテ古來入會村ナリシモ其領分ハ不殘入會村ナリト云フニア
ラス因テ松平遠江守領分ノ村ニ於テ當時該論地ニ入會ヒタルトア
ルモ被告カ之ニ入會ヒタルニ非サルナリ

本文甲第四號證ハ左ノ如シ

甲第四號

信州水内郡九十五个村百姓ト同郡戸隱山學頭衆徒黑姬山諍論ノ
事百姓訴候ハ四十五年以前野尻村柏原村訴論之節御檢使被遣五
个領入會ニ被仰付御證文有之候四十一年以前又々及爭論申候時
分モ入會之御證文被下置候由申之衆徒申候ハ戸隱山境内ハ長祿

二年緣起之内ニ北ハ黑姬境之宮ト有之從先規境之宮伊豫谷ヲ越
他領之者一切不入來處近年境ヲ打越種池山迄道ヲ作竹木伐取之
由訴之右論所山境就不分明池田新兵衛手代杉山彦助成瀬五左衛
門手代堀内七郎右衛門差遣遂檢分處衆徒所指ノ黑姬境ノ宮舊跡
不相見並種池ト申處地窪之處兩所ノ内今種池ニハ水溜蘆生有之
雖然種池之證文一切無之九十五个村入來ル山道數多相見候且又
慶安二年承應二年兩度之裁許之證文之趣御巢鷹山ヲ除黑姬嶺ヲ
切東ノ方ハ跡々入來候鄉村如先規入會ニ申付候旨載之只今檢分
之上往年裁許之通東南ノ山迄入來道相見候其上西山峯通リ儘ニ
相續キ一山ニ相見ヘル條旁以百姓申處有謂事ニ候依テ入會境引
墨筋各加印判境相定候自今以後衆徒百姓互ニ入會材木薪秣不可
伐採之仍爲後證繪圖令裏書雙方ニ下置之間不可違失者也

元祿六年癸酉十二月廿二日

稻 伊 賀
松 美 濃
川 攝 津
能 出 雲
本 紀 伊
戶 能 登
松 壹 岐

而シテ元祿度ニ至テ其福王寺村及ヒ淺野村モ該論地ニ入會フヲ止メタレバ此時ハ既ニ四个領トナリタリ因テ乙第三號證ノ末文ニハ四个領庄屋云々ト記載コレアリ

本文乙第三號ハ被告ノ證トスル元祿度舊板倉甲斐守領廿八个村ヨリ戸隱山衆徒ニ對セシ訴狀寫ニテ其文左ノ如シ

一信州黒姫山ト申ハ別山ニテ太田作之進様御代官所松平攝津守様眞田伊豆守様松平遠江守様板倉甲斐守様知行所右五箇領入相ノ村々往古ヨリ入來申處ニ四十三年以前丑ノ年松平遠江守様御領分野尻村柏原村ヨリ非議成山論申掛候ニ付御公儀様ニ御訴訟申上候得ハ彼黒姫山ニ御檢使様御越被遊右五箇領ノ入相ニ被仰付御證文被下置候處以下略
右ノ段々被聞召分入相四箇領ノ庄屋一組ニ而御座候間被召寄相手戸隱山衆徒被召出御詮議ノ上前々通リ明白ニ被仰付候ハ、難有可奉存候以上

元祿四年未ノ六月六日

以下略

又被告ニ於テ甲第四號圖裏書ニ九十五箇村トアルハ誤リニシテ該圖ニハ被告村及ヒ野尻村ヲ合シテ九十三箇村ナリト云フモ該圖卯

形内ニ村名ヲ記セシ内小玉村上野村千田村ハ二領ニ涉リ及ヒ宇木村ハ上下二箇村トナリタルヲ以テ各之ヲ二箇村ト倣シテ合計スレハ被告村及ヒ野尻村ヲ除キ該圖ニ記載セシ入會村ハ九十五箇村トナリ則チ該裁判裏書ニ記載スル所ト適合スルコトハ甲第六號元祿九年十月十四日付裁許狀及ヒ圖甲第十一號明治八年八月十日付丸山彦右衛門證明書ヲ参照スルキハ右小玉村已下ノ二箇村ナリシコトハ明ラカナリ且訴訟ニ被告ノ干預セサリシハ被告ノ該論地ニ入會ハサルノ證ナリト訴ヘ

被告答フル要旨ハ御巢鷹山ノ官林ハ熊坂村ノ管理スル所コシテ被告村ニ於テ之ニ干預セシコトナク其甲第一號則チ乙第一號證及ヒ甲第二號證ノ如キハ被告村ニ於テ原告村々ノ黒姫山ニ入會フコト拒ミシヨリ爭論ニ及ヒ遂ニ原告村ニモ該論地ニ入會フヘキ旨ヲ裁判

セラレタルモノコシテ被告ハ該論地ニ入會フヘカラスト云フモノニ非ラス其甲第二號ノ末文御巢鷹山ニ管涉セシコトナケレハ被告ニ對スルノ云渡シコトアラズ唯當時御巢鷹山ノ官林ヲ重要ナルモノト倣セシヨリ之ヲ記載セラレタルモノナルヘシ其甲第二號圖ニ長沼領村々ヨリ該論地ニ入込ム所ノ道路ハ標柱ヲ以テ明示セラレシモ其實況ヲ示サレシ而已ニシテ之ヲ以テ被告村ノ入會ニ非サルノ證ト認メ難ク其甲第四號證ノ如キ其裏書ニハ九十五箇村トアルニ其表圖ニハ九十三箇村ノ名ヲ記載シ該證ニ於テ必ズ被告ノ該爭訟ニ干預セサリシト云フノ證ナク加之乙第三號元祿四年未ノ六月六日付訴狀ニハ太田作之進代官所已下五箇領村々ハ往古ヨリ入會ナルコトヲ記載シ而シテ被告村ハ其五箇領ノ一ナリ其甲第三號ノ第一項及ヒ第二項ノ如キ野尻村ニ於テ入會ノ權利ヲ拋棄セシノ證トスヘ

キモ之ヲ以テ被告ノ該論地ニ入會ヲ得サルノ證トスヘキニ非ラ
 ス况ンヤ乙第八號明治五年壬申五月附ノ書面ニ依ルキハ當時野尻
 村ハ入會村ニシテ甲第三號證第一項及ヒ第二項ニ證明セシ所ト反
 對スルニ於テチヤ然リ而シテ乙第四號原告村戸長已下記名調印ノ
 圖面以下乙第七號八年六月十八日付ニ至ルノ書面ニ依レハ現今モ
 猶被告ノ該論地ニ入會ヒ居ルヲ證明スヘシト答ヘタリ因テ判決
 スル左ノ如シ

第一條

甲第四號圖字木村ハ原告ノ申立ル如ク甲第六號圖ト同シク當時既
 ニ上下ニ分タレ兩村アリシニ於テハ甲第四號圖ニ於ケルモ下風間
 村下越村等ノ如ク上下等ノ文字ヲ冠シ現ニ之ヲ二箇村ニ區分シテ
 記載スヘキナリ然ルニ單ニ字木村ト稱セシニ依レハ該村ハ甲第四

號證裁許ノ後ト甲第六號證裁許トノ中間ニ於テ上下字木村ニ分カ
 タレタルモノニシテ甲第四號證裁許ノ時ハ字木村ハ唯一箇村ナリ
 シモノト見做サ、ルヲ得ス因テ小玉村上野村及ヒ千田村ノ如キ一
 村ニシテ二領ニ係ルヲ以テ原告ノ申立ル如ク之ヲ二箇村トシテ計
 算シ得ヘキモ字木村ノ如キハ之ヲ二箇村ト做シ計算スヘキモノニ
 非サルナリ何トナレハ字木村ノ如キハ單ニ該圖黃色ノ部分ニアリ
 テ一領ノ村柄ナレハナリ因テ甲第四號圖ノ村數ハ原告ノ指稱スル
 所ニ依リ被告村及ヒ野尻村ヲ除キ之ヲ計算スレハ九十四箇村トナ
 リ該圖裏書ノ村數ニ適合セサルヲ以テ該證ナル村數ヲ以テ被告村
 ノ入會ニ關スル事柄ヲ定ムヘキモノニアラストス

第二條

甲第四號裏書ニ信州水内郡九十五箇村百姓與同郡戸隱山學頭衆徒

黒姫山争論之事百姓訴候ハ云々五箇領入會ニ被仰付云々百姓申所
 有謂事ニ候依テ入會云々トアリ而シテ原告ニ於テ該訴訟ヲ做スノ
 初メハ松平遠江守ノ領分ナル淺野村及ヒ福王寺村ナルモノモ他ノ
 村ト共ニ訴訟ヲ做シ其審問ノ中間訴訟ヲ做スヲ止メ該裁判ニ關セ
 サリシナリト云フモ特ニ原告ノ口述ニ止マリ其證ナク却テ該證ニ
 五箇領トアリ而シテ該圖ニ圖畫スル所モ亦被告村等ヲ合シ五箇領
 ニシテ該圖ト該裏書ニ記載スル所ト適合スレハ甲第四號ノ訴訟ヲ
 起スニ當リテハ淺野村等ヲ合シ五箇領ニシテ其裁判ヲ受クルニ當
 リテハ被告村等ヲ除キ四箇領ナリシモノト認メ難シトス况ンヤ被
 告村等ハ該訴訟及ヒ該論地ニ關係ヲ有セサル所ノモノナルニ於テ
 ハ之ヲ甲第四號圖ニ登記スルヲ要セサルニ於テヤ因テ被告ハ甲
 第四號裏書五箇領ノ内ニ包含セシ所ノ村ト見做サ、ルヲ得ス

但甲第八號元祿四年未七月廿二日付書面ニ記載スル所ハ松平攝
 津守已下三領ナレハ之ニ板倉甲斐守ノ領分ヲ合シ四領ト相成リ
 松平遠江守領分ハ之ニ干預セサルカ如クナレト該證ノ日付ヨリ
 五十餘日ノ前ニ成立チタル乙第三號及ヒ甲第八號證ノ成立タル
 年ノ十二月ニ於テ成立チタル甲第四號證ニ於テハ現ニ五箇領ト
 アリ而シテ甲第八號證ニハ松平遠江守領分ヲ脱セシモ亦松平遠
 江守領分ノ該證ニ關涉セス且入會村ニアラサル旨ヲ記載セサル
 ハ之レヲ以テ甲第四號圖及ヒ裏書ナル五箇領ニ關スル條件ヲ打
 消シ被告村ハ五箇領ノ内ニアラスシテ入會村ニ非ラサルノ證ト
 定メ難シトス

第三條

甲第三號第一項明治八年八月五日付一札甲第三號第二項明治十年

十一月十日付一札甲第七號第一項明治十年十一月廿日付證書甲第九號第一項明治十年八月廿二日指令書已下甲第十二號明治十年九月廿四日付縣廳指令書ニ至ルノ證ハ本訴爭訟ノ起リタル後原告ノ求メニ因リ成立チ或ハ本訴ニ關涉セサル他村ノ證明書或ハ原告ニ對スル地方官ノ指令書等ニシテ共ニ被告カ之ヲ認可シ且干預シタルノ證ニアラス又甲第十三號辰三月六日付已下中野役所ノ檢印アル夫錢帳ニ記載スル事柄ノ如キ固ヨリ原告カ該論地ニ入會フヘキノ證トスヘキモ之ヲ以テ被告カ入會ニ非ラサルノ證ト認ムヘキニ非ラス因テ共ニ採用セス

第四條

前條々ニ論列スル所ニ依レハ被告カ該論山ニ入會フヲ得ヘカラサルノ證ヲ看出サス然ルニ甲第一號證ニ柏原村野尻村ノ者申所不分

明云々トアルノミニシテ其事柄ノ何タルヲ記載セス且何村ハ入會フヘク何村ハ入會フヘカラスト云フヲ明記セス而シテ甲第二號裏書ニ至リ長沼領ノ百姓可爲入相云々トアルモ其表圖ニ於テハ特リ長沼領ノミナラス松平遠江守領分及ヒ眞田伊豆守領分ノ村々モ該論地ニ入會フヘキモノナリトシテ記載セラレ又該圖原告村々ヨリ該論地ニ達スル道路ニ記載セシ標柱ノ如キ固ヨリ原告村々ヨリ該論地ニ入ルヲ得ルノ證ナリト雖モ亦之ヲ以テ被告ノ該論地ニ入ルヲ得サルノ證ト認メ難シトス其被告村ハ現今御巢鷹山ノ管理者ニ非ラス而シテ往古被告ハ之ヲ管理シタリト云フカ如キハ特ニ原告ノ口述ニ止リ其證ナク而シテ假リニ原告ノ申立ル如ク甲第一號及甲第二號證ノ裁判ハ被告ハ御巢鷹山ノ管理者ナリシヲ以テ其境域ヲ超ヘ原告ノ入會地ニ侵入シ來リシニ依レルモノナリトスル

ハ該裁判ニ於テ原告ノ該論地ニ入會フヘキ旨ヲ記載セスシテ被告
村ノ該論地ニ入ルヲ禁止スヘキモノナリ何トナレハ假令其爭論
ハ被告ヨリ起リタルモノナルモ原告ノ申立ル所ニ依レハ該論地ノ
定リタル所得主ハ原告ニシテ被告ハ之ニ侵シ入ラント欲スルノ相
手方ナレハ其入ルヲ得ヘカラスルモノ、入ルヲ得サル旨ヲ禁止ス
ヘキモノナレハナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ被告ハ該論地ニ入會フ
ヲ得サルノ證アラサルモノナリトス

第五條

前條々ノ理由ナルニ付原告ノ請求不相立到底初審裁判所裁判ノ通
可相心得候事 明治十一年
六月廿九日

大審院ニ於テ
原告總代 木田鼎造外一人上告ノ要領

第一條

東京上等裁判所判文第一條ニ於テ甲第四號圖字木村ノヲ論シ該
村ハ甲第四號證裁許^{元祿六年}ノ後ト甲第六號證裁許^{元祿九年}トノ中間ニ於
テ上下字木村ニ分カタレタル者ニシテ甲第四號證裁許ノ時ハ字木
村ハ唯一個村ナリシモノト見做サ、ルヲ得スト判決セラレタル
右甲第四號證ノ時ニ於テハ既ニ字木村ノ上下ニ分チアリシ證ハ第
一同號證圖字木村ト記セル卵形内ニ一ノ縦線アルモノ第二寬文十
年ノ裁許繪面ニ上下字木村ヲ分書シアルモノ第三被告ノ證トスル
乙第二號ノ附箋ニ松代領四十箇村トアルモノ等ナリ所謂卵形内ノ
縦線ハ字木村ノ一村ナラサルヲ示セシモノナリ乙第二號附箋四十
箇村トアルハ彼ノ字木村ヲ二箇村ト算シタル村數ナレハモシ之
ヲ一村トナシ計算スル時ハ所謂松代領ハ三十九ヶ村ニシテ附箋ノ

村數ニ適セサルナリ故ニ被告ニ於テ此附箋ヲ證左トナシ呈シタル上ハ自ラ宇木村ノ上下ト分レアルヲ熟知シ居ルモノナリ如此宇木村ノ上下ニ分レシ證左アルニ上等裁判所ハ其審理ヲ盡サス單ニ被告カ呈シタル乙第二號圖即チ甲第四號圖寫テ信用シ却テ其原圖ニアル卵形内ノ縱線ニ關セス判決セラレシハ不法トスル所以ノ一也

第二條

同判文第二條ニ於テ甲第四號ノ裏書文即チ入會ニ被仰付云々ノ語ヲ採リ被告村等ヲ合シ五箇領ニシテ該圖ト該裏書ニ記載スル所ト適合ストアレモ右第四號證ノ當時ニ於テ主トシテ訴ヘタルハ舊板倉甲斐守領廿八箇村ニシテ被告ノ證スル乙之ニ追訴シタルハ舊太田作之進松平攝津守眞田伊豆守ノ三領タリ甲八號尤訴訟ノ初メハ

〇〇

舊松平遠江守領ノ内淺野福王寺ノ兩村モ本訴黑姬山ニ入會ヲナセシカ右追訴ノ際其入會ヲ謝シタルヲ以テ甲第七號第一甲第四號證裁許ノ際ハ黑姬山ニ入會セシ村々ハ四箇領ノミニナリタリ然ルニ該裁許狀ニ五箇領云々ト記セシハ彼ノ廿八箇村カ出許スル際淺野福王寺ノ兩村ヲ籠メ五箇領云々ト陳述セシヲ裁許ノ際裁判官ニ於テ尙其初メノ陳述ヲ其儘記載セラレシ迄ニテ新ニ下シタル判決ノ語ニハアラサルナリ且當時ノ入會村ハ四箇領ニテ九十五箇村ナレハ此裁許文中九十五箇村トアルハ尤肝要ノ文ナリ而シテ上等裁判所判決ノ如ク被告柏原村及ヒ野尻村ヲ以テ亦入會ノ村トセハ則チ九十五ヶ村トアル村數ニ適セサルナリ何トナレハ宇木千田上野小玉ノ村々各二村ニ分チ之レヲ八ヶ村トシ尙柏原野尻ノ兩村ヲ合算スレハ九十七箇村トナリ又被告ノ云フ如ク宇木千田等ノ村々ヲ

各二村ニ分タス各一村トナシ柏原野尻ノ兩村ヲ合計スレハ九十三箇村トナリ共ニ九十五箇村ノ數ニ適セサルハナリ然ルニ上等裁判所ハ此肝要ナル九十五箇村ニ適セサル村數ニ關セス却テ淺野福王寺ノ兩村カ入會ヲ謝セサル時ニ申訴セシ既往ノ陳述ヲ肝要トナシ五ヶ領ニ適合スル云々ト判決セシノミナラス淺野福王寺兩村ノ除名ニ就テハ甲第七號ノ證書アルニ右兩村ノ除名ハ特ニ原告ノ口述ノミニ止マル旨判決セシハ不法トスル所以ノ二也

同條但書ニ甲第八號ノ日付ヨリ五十餘日前ニ成立テタル乙第三號云々トアレヒ甲第八號ハ元祿四年七月廿二日付ニテ乙第三號ハ元祿四年六月六日附ナリ然ラハ此間ノ日數ハ四十六日乃至四十七日ニ過キヌ又甲第八號證ノ年ノ十二月ニ於テ成立テタル甲第四號云々トアレヒ甲第八號ハ元祿四年ニ成リシモノニテ甲第四號ハ元祿

六年ノ裁判狀ナレハ其差二年アリ何ッ之ヲ其年ト云ヘケンヤ如此上等裁判所ノ判文ニ疎漏多キハ即チ審理ヲ盡サハルノ一證ナリ

第三條

同判文第三條ニ於テ甲第三號ノ第一第二項證ハ本訴爭訟ノ後成立タルモノニ付採用セサル旨判決セラレタレヒ第二證ハ黒姫山入會ニ就テハ被告村ト同一ナル野尻村ノ保證ナリ既ニ被告柏原村ニ於テモ元祿度以後尙野尻村ト同一ニ黒姫山へ入會セシ旨終始陳述セシニ其同一ナリト云野尻村ニ於テ慶安承應度裁許ヲ以テ入會ニアラサル旨甲第三號ノ如ク證言セシ上ハ之ト同一ナル被告柏原村ノミ尙獨リ慶安承應後モ之ニ入會フノ理アルヘカラス是レ則チ前條ニ論スル如ク被告村ハ五ヶ領ニアラサルノ證左ナリ而シテ野尻村カ甲第三號ノ證書ヲ出シタルハ極テ依ルヘキノ證左アリテ入會

ニ非サルヲ明言セシナラン然ラハ則チ上等裁判所ハ宜ク此等ノ原因ヲ野尻村ニ糾シ以テ審理ヲ盡スヘキニ該證書ハ争訟後ノ證書ナリトテ漫リニ排斥セラレシハ所謂審理ヲ盡サル裁判ニシテ不法トスル所以ノ三ナリ

第四條

甲第一號第二號ノ證ハ今チ距ル二百餘年ノ古ニ成リシモノニテ其文簡短ニ過キ其意ヲ明記セサルモ既ニ彼我争論スルニ方リ彼我ノ裁判ヲ爲スニ我ハ入會ト斷決セハ我ニ對スル彼ハ入會ニアラサルト不言シテ明ナリ故ニ甲第二號證ニ長沼領ノ百姓可爲入會トアルハ即チ長沼領ニ非サル被告村ト野尻村トハ入會ニアラサルトノ意ナルト亦不言シテ明ナリ且被告村ト野尻村トハ御巢鷹山ノ管理者ナレハ御巢鷹番所ノ儀ハ云々ト裁判セシモノナリモシ被告ノ云如

シ被告村ハ御巢鷹山ニ關係ナキモノトセハ此裁判ハ乃チ雙方共關係ナキノ裁判ト云ヘシ既ニ雙方トモ關係ナキトセハ豈之ガ裁判ヲ爲スノ理アラシヤ其圖上入込山道標柱ノ如キハ原告村々ニ連接セル道線ニ明記シ置西ハ御巢鷹山トシ嶺ヨリ東ハ長沼領即チ原告村々ノ入會ト定メラレシモノニテ被告村及ヒ野尻村ハ入會ニアラサルハ其入込山道ヲ此兩村ニ連接セス且標柱ナキヲ以テ證スルニ足レリ之ニ因テ之ヲ觀レハ第一號證ノ裁許文ハ簡短ニ過クルモ被告柏原村ト野尻村トノ申分ヲ採用セス長沼領即チ原告郷村ノミ入會スヘキノ裁決ナリト解釋スルモ決テ誤解ニアラサルヘキニ上等裁判所ハ甲第一號證ノ文ヲ熟考セス唯入會云々ヲ明記セスト云ニ止メ甲第二號圖ノ標柱ハ被告村ノ入會ニアラサル證トナシ難ク且御巢鷹山ノ管理云々ハ其證ナシト概論シ遂ニ被告ヘ對シ入會ヲ禁ス

ルノ文ナケレハ被告カ入會フコト得サルノ證アラサル旨判決セシ
ハ亦審理ヲ盡サ、ル裁判ニシテ不法トスル所以ノ四ナリ
右ノ如ク東京上等裁判所ノ裁判ハ不法ト思惟スルニ付該裁判ノ破
毀アラソコト乞フ

原告總代 木田鼎造外一人陳述ノ要領

一寛文十年ノ繪圖ハ原告組合村ノ内大井村ニアル繪圖ニシテ明治
十一年二月廿二日上等裁判所審問ノ際訟庭ニ於テ提供セリ然ルニ
檢印ナク即時下附セラレ且之ヲ差出シタル證書ハアラサレ其前
日即チ明治十一年三月廿一日該圖ハ明廿二日檢閱ニ可供旨申上置
被告ニ於テモ寛文度及ヒ天保度ノ裁許ヲ援引云々ト辨駁セシ儀ハ
共ニ口供ニ載セテ明ナレハ明治十一年三月二十二日右繪圖ヲ上等
裁判所へ差出シタルハ確認スルニ足ルヘキナリ

一黒姫山入會九十五ヶ村ノ内六十二箇村ハ明治八年中迄退々除名
シ残り三十三箇村合併シテ十四箇村トナリ之ニ戸隠村ヲ加へ即チ
原告十五箇村ノ入會トナリシモノナリ

辨明

第一條

上告人ハ甲第四號元祿六年裁許繪圖ノ時ニ於テハ宇木村ノ上下ニ
分チアリシ證ハ第一同號證圖宇木村ト記セル卵形内ニ一ノ縦線ア
ルモノ第二寛文十年ノ裁許繪圖ニ上下宇木村ヲ分書シアルモノ第
三被告ノ證トスル乙第二號元祿六年裁許繪圖寫ノ附箋ニ松代領四
十箇村トアルモノ等ナリ云々申立ルト雖モ東京上等裁判所判文第
一條ニ於テ甲第四號證裁許ノ時宇木村ハ唯一箇村ナリシモノト見
做シタルハ其繪圖ニ記シタル下風間村下越村等ノ如ク上下等ノ文

字ヲ冠シ之ヲ二箇村ニ區分シテ記載セズ單ニ字木村ト記シアルヲ以テ一箇村ト見認タルモノナレハ字木村ト記セル卵形内ニ縱線アルモ其縱線ハ二箇村ノ區畫ヲ畫シタルモノナリトノ證ナキ上ハ其縱線ヲ以テ二箇村ニ分カレタル證ト爲シ上等裁判所ノ判決ヲ不當トスルコトヲ得ス寛文十年ノ裁許繪圖ハ上告人ニ於テ之ヲ東京上等裁判所ニ差出シタル旨申立ルト雖モ其證ナシ尤明治十一年三月廿一日ノ口供ニ右繪圖ヲ明廿二日可供檢閱候トアレハ其供述ハ將來ノコトヲ申立タルモノナレハ明治十一年三月廿二日ニ至リ果シテ之ヲ差出シタルモノト爲スヘカラス且ツ其繪圖ハ元祿六年ヨリ二十三年以前ニ成リシモノナレハ其繪圖ニ上下字木村ヲ分書シタルヲ以テ元祿六年ニ至リテモ同シク二箇村ナリトノ證ト爲スヲ得ス何トナレハ各村ノ分合ハ當時行政ノ處分ニ依リ或ハ合シテ一村トナリ

或ハ分カレテ數村トナルモノナレハナリ乙第二號元祿六年裁許繪圖寫ノ附箋ハ明治十年七月十日舊中越村宮下榮作上松村原孫右衛門ノ記シタルモノナレハ百八十餘年以前ナル元祿六年ノ村數ヲ證明スルノ力ナキモノトス斯ノ如ク元祿六年ニ於テハ字木村ノ二箇村ニ分レアリシ證ナキノミナラス其裁許繪圖裏書ニ九十五箇村ノ村名ヲ記セサレハ被告柏原村及ヒ野尻村ヲ除キ其他ノ各村ヲ以テ九十五箇村ト爲スコトヲ得ス而シテ其表面ノ繪圖ニ被告柏原村及ヒ野尻村ヲ記シアル上ハ此兩村モ他ノ各村ノ如ク入會ノ權利ヲ有セルモノトス何トナレハ其詞訟ニ關係セス其入會ニ連帶セサル村ハ之ヲ裁許繪圖面ニ記スヘカラサルモノナレハナリ故ニ東京上等裁判所判文第一條ニ於テ元祿六年裁許繪圖面裏書ナル村數ヲ以テ被告村ノ入會ニ關スル事柄ヲ定ムヘキモノニアラスト判決シタルハ

適當ノ裁判ナリトス

第二條

上告人ハ甲第四號ノ元祿六年裁許繪圖裏書ニ五箇領云々ト記セシ
ハ板倉甲斐守領廿八箇村カ出訴スル際淺野村福王寺村ヲ籠メ五箇
領云々ト陳述セシ裁許ノ際裁判官ニ於テ尙ホ其初メノ陳述ヲ其
儘記載セラレシ迄ニテ漸ニ下シタル判決ノ語ニアラス云々申立ル
ト雖モ裁許繪圖裏書中百姓訴候ハトアルヨリ入會ノ御證文被下置
候由申之トアル迄ハ訴訟方ヨリ申立タル要旨ヲ記シタルモノニテ
之ヲ記シタルハ則チ元祿六年十二月裁許ノ際ニ在レハ若シ此際ニ
在テ入會ノ村ハ四箇領ナリトセハ最初入會ノ五箇領カ減シテ四箇
領トナリシヲ其要旨中ニ掲ケサルヲ得サル理ナルニ之ヲ記セサ
リシハ即訴訟方ヨリ其事ヲ陳述セカリシヲ知ルヘシ而シテ其陳述

セカリシハ五箇領カ減シテ四箇領トナリシ事柄ナキヲ知ルヘシ何
トナレハ若其事柄アリシナラハ訴訟方ノ權利ニ關スルヲナルヲ以
テ之ヲ陳述スヘキ譯ナレハナリ且ツ裏書中ニ五箇領ト記シ其表面
繪圖ニ被告柏原村及ヒ野尻村ヲ合シテ五箇領ノ村名ヲ記シアル上
ハ柏原野尻ノ兩村ヲ合シ五箇領ナリシヲ明瞭ナリトス甲第七號舊
福王寺村代議人澁澤兵左衛門外一人ノ證明書淺野村代議人村松源
太夫外一人ノ證明書ハ明治十年十一月ト明治十年十二月ニ記シタ
ルモノナレハ元祿年間ノ事實ヲ證明スルヲ得サルモノトス
東京上等裁判所判文第二條但書ニ甲第八號證ノ日付ヨリ五十餘日
ノ前ニ成立チタル乙第三號及ヒ甲第八號證ノ成立チタル年ノ十二
月ニ於テ成立チタル甲第四號證トアルハ上告人申立ル如ク日數或
ハ年數ノ計算ヲ誤リタルモノナレト乙第三號證ハ甲第八號ノ以前

ニ成立チ甲第四號ハ甲第八號證ノ後ニ成立チタルコトニ於テ差異ナ
キモノナレハ此計算ノ錯誤ハ本案ノ裁判ニ關係ナキモノトス

第三條

上告人ハ被告柏原村ニ於テモ元祿度以後尙野尻村ト同一ニ黒姫山
ニ入會セシ旨終始陳述セシニ其同一ナリト云野尻村ニ於テ慶安承
應度裁許ヲ以テ入會ニアラサル旨甲第三號ノ如ク證言セシ上ハ之
ト同一ナル被告柏原村ノミ尙獨リトニ入會フノ理アルヘカラス云
々申立ルト雖モ甲第三號書面ハ明治八年八月五日及ヒ明治十年十
月十日ニ於テ慶安承應度ノ事實ヲ見聞セサル野尻村用掛代議人等
カ記シタル書面ナレハ之ヲ既往ノ古昔ニ遡リ以テ野尻村ハ慶安承
應度ノ裁許ニヨリ直ニ黒姫山ニ入會チナサ、ルモノナリトノ實證
トナスヘカラス假令該書面ヲ以テ野尻村ハ入會ハサルトノ證トナ

スモ是則チ野尻村カ自テ入會ニアラサルモノト會得セシ迄ニテ他
村ナル被告柏原村モ亦入會ニ非サルトノ證トナスヲ得ス何トナレ
ハ其根元タル慶安承應度ノ裁許文ニハ野尻村柏原村ハ入會ニ非ス
ト明記セシモノナケレハナリ故ニ東京上等裁判所ニ於テハ甲第三
號證ニ就キ野尻村ヲ審糺スルヲ要セサルモノトス

第四條

上告人ハ甲第一號慶安二年裁許書甲第二號承應二年裁許書及ヒ其
繪圖ニ就キ種々ノ陳述アリト雖モ慶安承應兩度ノ裁許書ハ柏原村
野尻村訟求ノ要旨ト長沼領百姓答辨ノ要領トヲ記載セサルニ由リ
其爭フ所ノ要點ハ茫乎トシテ知ルヲ得ヘカラス故ニ其爭論タルヤ
被告カ東京上等裁判所ニ申立タル如ク柏原村野尻村ニ於テ長沼領
百姓カ黒姫山ニ入會フヲ拒ミシヨリ爭論ニ及ヒタルヤモ知ルヘ

カラス然ラハ則チ慶安二年裁許書ニ跡々入來候郷村如先規入相ニ
申付云々承應二年裁許書ニ長沼領之百姓可爲入相之由證文有之上
ハ自今彌可相守云々トアルハ即長沼領百姓カ柏原村野尻村ノ入來
リタル黑姫山ニ入會フヘントノ意ナリト解釋スルモ失當ト云フヘ
カラス故ニ此泛然タル兩裁許文ヲ以テ單ニ被告柏原村及ヒ野尻村
入會ニアラサルノ裁許ナリト斷言スルヲ得ス而シテ承應二年裁許
繪圖ニ記載シタル入込山道ノ標柱ハ被告柏原村及ヒ野尻村ニ連接
セサルモ風間村平林村ノ如キ原告村ノ内ニアリテ入會ノ權ヲ有シ
ナカラ入込山道ノ連接セサルモノアルニ依レハ其標柱ノ連接シタ
ルト否ラサルトハ一概ニ入會タルト入會ニ非サルトナ定メタルモ
ノト爲スヘキニ非ストス

判決

前條々ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナ
キモノトス

第貳百貳拾三號

○山林賣買契約履行一件上告ノ判文
明治十一年七月廿二日上
告
明治十一年十二月廿八
日申
渡

原告

堺縣下大和國吉野郡佐

々羅村平民坂本仙太郎

右代人

同村平民

林 嘉 三 郎

被告

堺縣下大和國吉野郡井

戸村平民井上儀作

右代人

京都府士族

大坂上等裁判所ノ判文

山林賣買契約履行ノ控訴審理ヲ遂ル處

原告〔井上〕訴出ノ要旨ハ第一議定證

本文議定證左ノ如シ

議定證

一川上郷人知村領字柏平ト申山林一箇所

同村領字ミウライト申處杉檜山一箇所

字足谷中西出同處住屋地二箇所

四箇所

但シ此内足谷中西出右二箇所高原村領内也

右ハ人知村松浦伊市郎出山林也

關

定

〇

同村領字狀箇塚ト申杉檜山一圓一箇所

同村領字總名ヲテ原ト申杉檜山新木古木共一圓一箇所

但シ東雜木山尾限リ 南尾限リ 北谷限リ

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

合六箇所

此代金貳千貳百八拾七圓五拾錢也

右ノ通山林賣附申候尤モ金圓受取方ノ儀ハ本月廿五日迄ノ間ニ

御規則ノ通確書へ正副戸長ノ奥印調印ノ上一時皆金御渡シ可被

下候條約也爲念議定書仍テ如件

明治九年一月十六日

第七大區三小區

佐々羅村

坂本仙太郎印

井戸村

井上儀作殿

ノ如ク明治九年二月十六日山林買附ケノ契約取結セタル處被告ニ於テ履行不致ルニ付明治十年二月七日始審廳へ出訴及ヒ被告ニ於テハ該山林證據書中ニ松本善得出ト記載スル分未タ被告ニ引渡シテ得サルニ付履行スル能ハサル旨答辨ノ末右證書ニ印紙犯則發顯シタルヲ以テ明治十年二月二十八日一先ツ原告ヨリ訴狀却下ヲ頼出テ爾後被告ノ引渡シテ得サル旨答辨シタル山林此頃引渡シテ得タルヲ知シ明治十一年四月一日再ヒ始審廳へ出訴及ヒタリ然ルニ該訴ハ已ニ出訴期限ヲ經過シタリトテ同規則第二條ニ依リ受

理裁判スヘキ者ニ非スト明治十一年四月八日訴狀却下セラレタル
トモ該訴ハ山林賣買ノ契約履行ヲ請求スル者ニシテ出訴期限中明
文無キノ事件ニシテ第二條中何等ニ準據セラレタルヤ了解シカ
ク全ク不動産ノ既ニ我レニ所有權ノ移リシ者ヲ我レニ保有セ
ンコトヲ訟求スル者ナルヲ以テ該規則ニ準據セス出訴權ヲ有スル義ト思
考シ且ツ被告ニ於テ證書ニ明記スル如ク戸長與印ヲ請ヒ求メシニ
戸長ニ於テハ該山林ノ前所有主松本善得ヨリ故障ヲ述ルヲ以テ與
書調印ハ成シ難シトテ之レヲ拒ミタルニ付其期限内與書調印ヲ受
クル能ハス因テ其證書ノ契約ヲ履行スル義務ハ今已ニ消滅シタル
者ナリト申述スレトモ之ヲ假リニ信實ノ事トナスモ決シテ義務ノ消
滅スル理ハ之レナク其戸長ノ與書調印ヲナスニ他ヨリ妨害アル事
件ハ之レヲ飽マテ防禦シ以テ其與書調印ヲ受ケ其契約ヲ履行スヘ

キハ被告ノ負擔スル義務ニシテ今戸長ノ成規ナキヲ以テ奥印ヲ拒ムニ於テハ強テ之レカ要求ヲ爲サス山林賣買ノ契約ハ速ニ履行受ケ度旨申供シタリ

被告【坂本仙】答辨ノ旨趣ハ明治九年一月十六日山林五ヶ處ノ立木該證契約ノ如ク豫定シ同月廿五日迄ノ内戸長ノ奥印ヲ要シ之レヲ遂ク可ク該時些少手附金ヲモ受取ルコトナク管證書ノミ交換シ期内之レヲ履行セント村役場ニ就テ奥書調印ヲ請ヒタル處戸長ニ於テ該山林賣買ノ如キ該地所有主ノ承諾證無之ノミナラス戸長ニ於テ山木賣買ニ奥書調印ノ成規モアラサレハ漫リニ爲スヲ得難キ旨申斷リ其段原告ヘモ通報シ右ハ戸長ノ奥印ヲ要セス雙方ノミ之レヲ遂ク可ク示談及ヒタレントモ原告ハ強テ戸長ノ調印ヲ要シ彼是肯ンセカリシ末明治十年二月七日始審廳ヘ出訴及ハレケル處印紙犯則ノ

廉ヲ以テ一先ツ退訴シタリ爾後滿一年餘月ヲ經過スルモ原告ヨリ何等引合モ無之無論有契約ハ消滅シタル義ニ付該山林ハ被告ニ於テ依然進退スルモ原告之レヲ明許シ居リ突然本年四月一日ニ至リ該證書ハ不足印紙ヲ原告自己ニ貼用シ再訴ニ及ヒタリ然ルニ該證ノ如キ山木賣買ノ契約ニシテ雙方互ニ賣附云々ノ證書ヲ授受シ一方ハ買附山木ヲ受取ラントシ一方ハ賣附代金ヲ受取ントスルニ過キス果シテ然レハ出訴期限第二條ニヨリ始審廳ニ於テ却下サレシハ其當ヲ得タルモノニテ旁以テ該證ヲ履行スル義務ハ解除ヲ得タル旨答辨シタリ

第一條

該契約ノ如キ出訴期限第二條賣掛金ニ照準シ已ニ義務ノ解釋ヲ得

タル旨被告申立ルト雖モ該訴ノ如キ山林ト金員ト授受ノ契約ヲ遂ケントスル迄ニシテ買附山木賣附代金等ヲ受取度ト物品授取ノ跡ヲ以テ比準スヘキモノニ非ス無論出訴期限中明文ナキノ契約ニシテ條約書無期ノ契約ト見做サ、ルヲ得ス

第二條

被告ニ於テ該山林賣買契約書中戸長ノ與書調印ヲ請ヒタル處戸長ニ於テ山林賣買ニ與印ノ成規無之且ツ該地所有主ノ承諾證無之ヲ以テ旁與印ヲ被拒タルニ付原被雙方ノミ賣買ヲ遂クヘキ示談及ヒタルモ原告ハ強テ戸長ノ與印ヲ要シ一年餘月ヲ經過スルヲ以テ右契約ハ戸長與印ヲ拒マレタルヨリ自然消滅シタル旨申立ルト雖モ戸長ノ與印ヲ要スルハ必竟契約ヲ鞏固ナラシムル迄ノ土地習慣ニテ今更強テ要求スル筋ニ無之旨原告申立ル上ハ契約書中戸長ノ與

書調印ノ上トアルハ林木ト金員ト授受ノ間ヲ堅固ナラシムル迄ト見做サ、ルヲ得ス其戸長ノ與印ヲ拒ムヤ山林賣買ニ與印ノ成規ナキト該地所有主ノ承諾證ナキトヲ以テノコナレハ無論被告ノ負擔シ盡スヘキ義務ヲ怠リシモノニテ原告者ノ豫知スヘキ筋ニ無之且ツ契約後一年餘月ヲ經過シタルモ被告ノ義務ヲ怠リシ原告ノ豫知セサル妨害ニリ遷延シタルヲ以テ今更戸長ノ與印ヲ拒ミ歲月ヲ歴タルヲ被告口實トスルモ林木生立其他事故ノアルナキヲ以テ該賣買契約ノ消滅シタルトノ申立ハ採用不致候事

第三條

前條ノ理由ナルヲ以テ原告強テ戸長與印ヲ要求セサルニ付被告ニ於テ山林賣買契約履行ヲ拒ム權利ハ無之事
明治十一年六月
大審院ニ於テ

原告代人 林嘉三郎上告ノ要旨

第一條

大坂上等裁判所判文第一條ニ出訴期限中明文ナキ契約ニシテ條約書中無期ノ契約ト見做サ、ルヲ得ストアレト該條約書ハ即チ明治九年一月十六日原被告互ニ交換シタルモノニテ其文中ニ山林賣附申候尤モ金圓請取方ノ義ハ本月廿五日迄ノ間トアリテ明治九年一月廿五日迄ニ其契約ヲ履行スヘシト云ノ文義コテ有期ノ契約ナルヲ明白ナリ然ルチ無期ノ契約ト見做サレタルハ不當ノ裁判ト思考ス

第二條

同判文第二條ニ其戸長ノ與印ヲ拒ムヤ山林賣買ニ與印ノ成規ナキト該地所有主ノ承諾證ナキトチ以テノ事ナレハ無論被告〔今次〕ノ負

擔シ盡スヘキ義務ヲ怠リシモノトアレト原告ハ該契約ヲ履行セシカ爲被告ト共ニ戸長役所ニ至リ賣買證書ニ與印ヲ請求セシニ戸長ニ於テ山林賣買ニ與印ノ成規ナシト云チ以テ之ヲ拒絕シタリ故ニ戸長ノ與印ヲ要セス直チニ賣買ノ契約ヲ遂ント被告ヘ示談ニ及フト雖モ被告ニ於テハ已ニ戸長與印ノ成規ナキヲ會得シナカラ猶其爲シ能ハサル與印ヲ要シ物件授受ヲ肯ンセサルヨリ遂ニ契約ヲ果サハリシモノニテ此契約ハ即チ被告ガ自カラ廢棄シタルモノナレハ今日ニ至リ無効ノ證書ナリ然ルチ大坂上等裁判所ニ於テハ其意夫原告ニ歸シ山林賣買契約ノ履行ヲ拒ム權利ハ無之ト判定セラレタルハ事實ヲ盡サ、ル不當ノ裁判ト思考ス

前條々ノ次第ニ付原裁判ノ破毀ヲ請フ
被告 關定答辨ノ要領

第一條

本訴條約書中ニ本月廿五日迄ノ間云々ト明記アルハ即チ契約履行ノ期限ナリ因テ右期日ニ至リ其履行ヲ受ケント戸長役場へ代金ヲ持參シタルニ該條約山林ノ内字ヲテ原告ノ一箇所ハ松本善得ヨリ與書調印ノ故障申出居リ夫レカ爲メ原告ニ於テ戸長ノ與印ヲ受ル能ハスシテ遂ニ契約ノ履行ヲ遷延セリ然ルチ大坂上等裁判所判決書第一條中ニ條約書中無期ノ契約ト見做トアルハ被告於テモ尠シク了解シ難シ

第二條

本訴條約書戸長ノ與書調印ヲ要シタルハ單ニ賣買ヲ鞏固ナラシムル迄ノミナラズ我カ大和國吉野郡ノ習慣ニテ山林賣買ニ於ケル雙方協議ノ上現場伐リ採ル立木ノ如キハ其賣券證ニ戸長ノ與印ヲ要

セサレ且其儘年季ヲ約シ生立致シ置カ或ハ幾年間ノ生立ヲ待テ伐木スル等ノ山林ハ其賣券證ニ必ス戸長ノ與印ヲ要セリ本訴條約ノ如キモ山林六箇所共立木一代^{其儘生}立チ云^{買受ノ約束ナルヲ}以テ乃チ本月廿五日迄ノ間ニ戸長ノ與書調印云々ト明記シタル者ナリ然ルニ前條ノ如ク松本善得ノ故障ニ依リ戸長於テ其與印ヲ拒ミタル者ナリ然ラハ則チ戸長ノ與印ヲ受ル能ハサルモノハ原告ノ怠ヨリ生シタルモノニテ大坂上等裁判所判決書第二條中ニ無論被告^{今次}原告^{今次}ノ負擔シ盡スヘキ義務ヲ怠カリシ原告^{今次}被告^{今次}ノ豫知セサル妨害ヨリ遷延シタル旨ニシテ林木生立其他事故ノアルナキヲ以テ該賣買契約ノ消滅シタル者ニ無之トアルハ至當ノ裁判ト思考ス

辨明

第一條

大坂上等裁判所判文第一條ニ出訴期限中明文ナキノ契約ニシテ條約書無期ノ契約ト見做サ、ルヲ不得ト判定スレニ其條約書中ニ山林賣附申候尤モ金圓受取方ノ義ハ本月廿五日迄ノ間トアリ廿五日迄ニ其契約ヲ履行スヘシトノ文義ニテ有期ノ契約ナルコト更ニ明瞭タリ然ルニ何等ノ理由ヲモ説明セズ無期ノ契約ト見做シタルハ不都合ノ判定ナリトス

第二條

本訴契約書ニ戸長與書調印ヲ拒ミシハ原告ニ於テハ山林賣買ニ戸長與印ノ成規ナク且該地所有主ノ承諾證ナキノ故ナルコトハ原被告互ニ承了シタリ其成規ナキト云テ以テ拒ニ於テハ到底求メ得ヘキコトニ非ス之ニ因テ戸長與印ヲ要セズ直ニ賣買ヲ遂ケンコトヲ被告ニ協議スレニ被告ハ戸長與印ヲ口實トシ金員ヲ授與セズ其儘經過

セシト云ヒ被告ハ戸長ノ與印ヲ拒ミシハ松本善得ノ故障ニ起因セシモノニテ其故障タルヤ素ヨリ被告ノ豫知セサル妨害ニテ其妨害ハ原告ノ防禦スヘキ義務ナリトノ趣旨ヲ以テ互ニ相争ヘリ抑該詞訟ヲ判定スルヤ原被告相争フ處何レカ事實ナルヤヲ審究詳明スルヲ要點ナリトス何トナレハ果シテ原告言ノ如ク成規ナキヲ以テ戸長與印ヲ受ケ得サルニ金員ヲモ授與セズ其儘經過セシモノナレハ被告躬ヲ契約ヲ廢棄セシモノニテ後日再ヒ契約履行ヲ請求スルノ權利ナキモノナリ若又被告ノ言ノ如ク被告豫知セサル妨害ニシテ原告可盡義務ヲ怠リシモノトスレハ契約履行ヲ可拒權利ナキモノナリ然ルニ大坂上等裁判所於此二箇ノ事實ヲ審究セズ原告ノ言ヲ採用シナカラ却テ被告戸長ノ與印ヲ要求セサレハ原告ニ於テ山林賣買契約履行ヲ拒ヘキ權利ナキモノト判定セシハ審理ヲ不盡裁判ナ

リトス

判決

前條々々次第ナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ東京上等裁判所ニ移スニ付同所ノ裁判ヲ可受事

大審院民事判決錄終

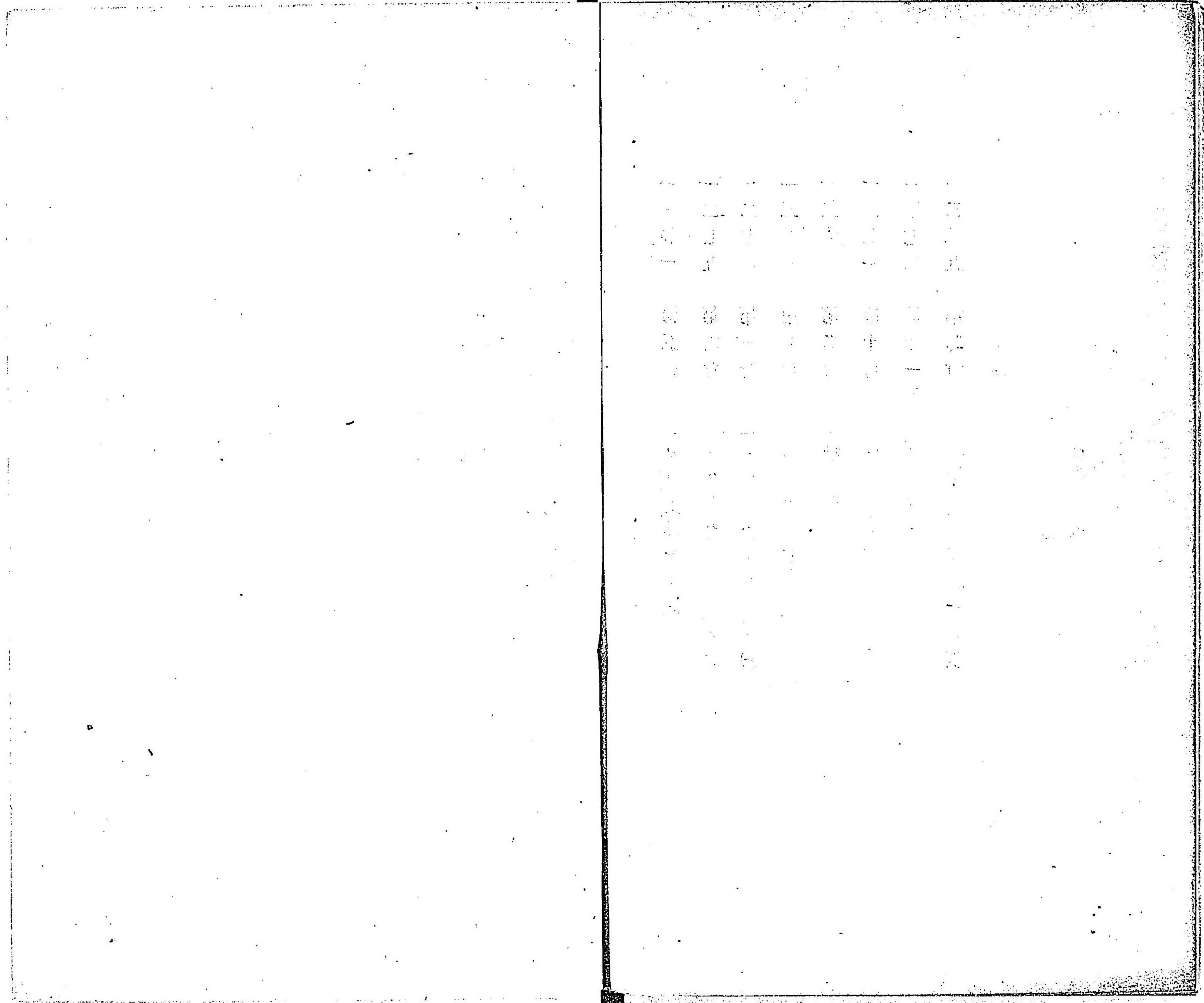
〇み

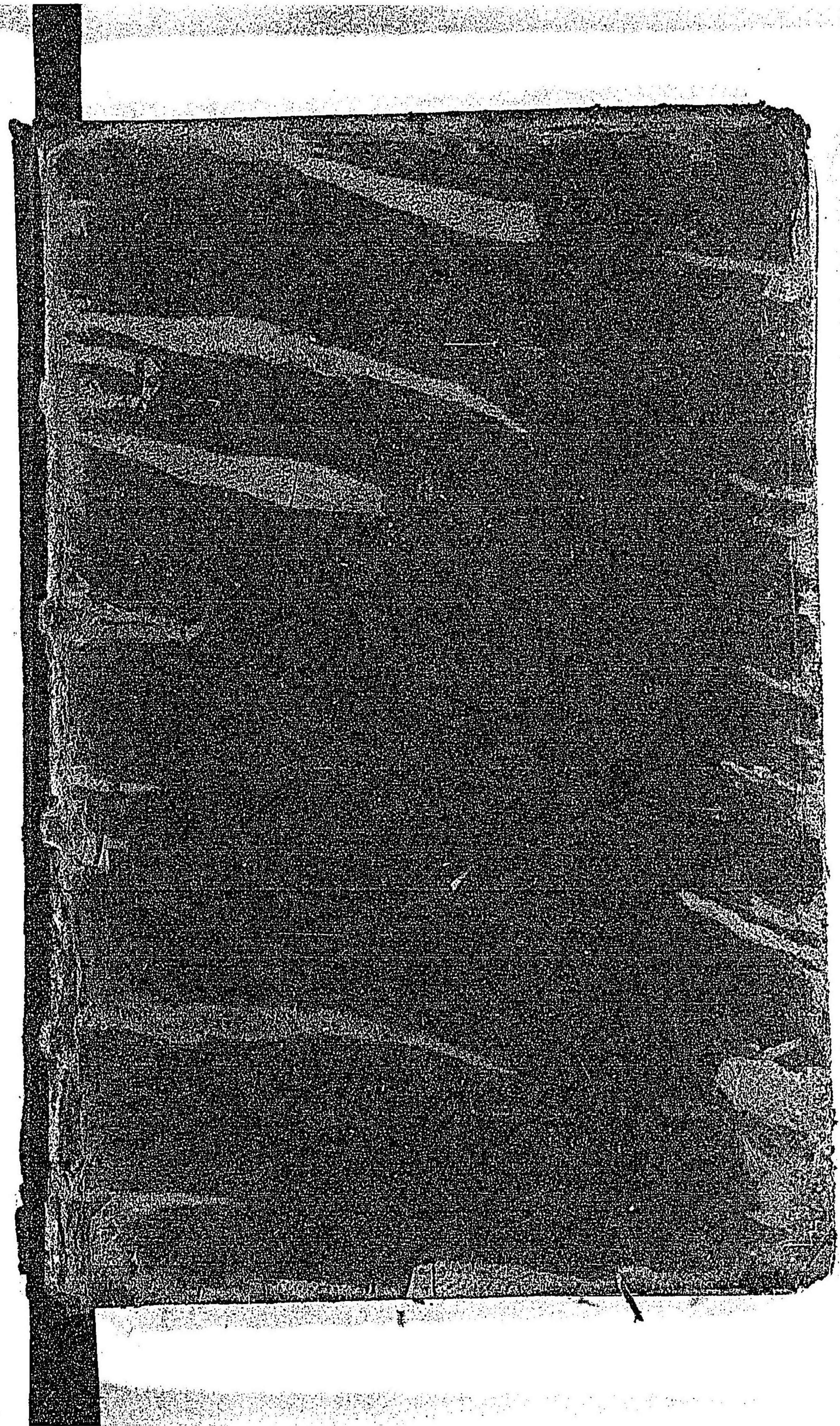
謬誤追正

- 五五 第六行 [極]ハ[權]ノ誤
- 一一三 第七行 [分]ハ[合]ノ誤
- 一三二 第六行 [傷]ハ[場]ノ誤
- 二四九 第六行 [字]ハ[字]ノ誤
- 三五三 第八行 [徐]ハ[除]ノ誤
- 二六〇 第二行 [永]ハ[水]ノ誤
- 三八六 第九行 [分]以テ[以]テ分ノ倒
- 五七七 第二行 [顯]ノ二筆存在前故[故]前顯ノ二筆存在ノ倒
- 五七八 第五行 [抗]ハ[杭]ノ誤
- 六七〇 第十一行 [彰]ハ[影]ノ誤
- 七八一 第九行 [廷]ハ[延]ノ誤

- 八一八 第九行 [粟]ハ[粟]ノ誤
- 同 第十一行 [規期]ハ[規則]ノ誤
- 八九三 第十行 [方]ハ[ハ]ソノ誤
- 九七一 第四行 [金]ハ[全]ノ誤
- 一〇〇五 第六行 [番]以上[拾]字ヲ脱ス
- 一〇〇九 第六行 [證]字横植
- 二〇一三 第四行 [五年]ハ[年五]ノ例
- 二〇四二 第七行 [起]ハ[記]ソノ誤
- 一〇五八 第三行 [承]ハ[永]ソノ誤
- 一〇五九 第二行 [上]字倒植
- 二〇六五 第十一行 [聞]ハ[問]ソノ誤
- 二〇八二 第十二行 [記]ハ[配]ソノ誤

- 一一〇一 第五行 [以]ラ[ハ]以[テ]ソノ誤
- 一二七五 第六行 [キ]ヘ[キ]ハ[ス]ヘ[キ]ソノ誤
- 一二七七 第一行 [ナ]シ[テ]ハ[ト]シ[テ]ソノ誤
- 一三四八 第七行 [月七]ハ[年七]ソノ誤
- 一三六八 第二行 [揚]ハ[揭]ソノ誤
- 一三七一 第十行 [等]ハ[第]ソノ誤
- 一三七二 第十一行 [道]ハ[通]ソノ誤
- 一三八五 第二行 [論地]ト[ハ]論地[ハ]ソノ誤





036566-010-9

CZ-2811-10

大審院民事判決録

明8.7-14.6 14.10-17.12月
司法省

M11-19

BBR-0616

